FUSO magazine

No. 84 | 2023 May/Jun.



特集

組織を超えた力が生み出す

新型eCanterに込めた熱き想い

未来へ、はこぶ人。

棋士 羽生善治さん

FUSO



FUSO magazine

No. 84 | 2023 May/Jun.

CONTENTS

3
サステナブルで未来へ向かう
ロジスティード株式会社

6
特集
組織を超えた力が生み出す
新型eCanterに込めた熱き想い

11
未来へ、はこぶ人。
棋士 羽生善治さん

14
キャンター60周年特別企画！
第1回 CANTER検定

15
三菱ふそうからのお願い

16
FUSO INFORMATION

17
今さら聞けないトレンド用語 ビジュアル解説
エシカル消費

18
Ranking & Voices

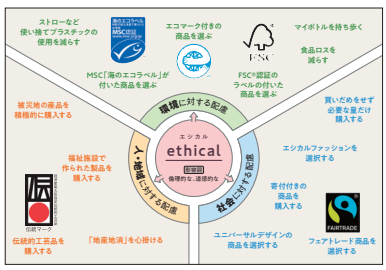
19
Present ／ CANTER検定 解答コーナー





Present





©FUSO magazine　本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断複写、転載を禁じます。

2023.05/06





サステナブルで
未来へ向かう

We are Future-oriented

LOGISTEED

ロジスティード株式会社
ロジスティード南関東株式会社

2023年４月に体制刷新、ロジスティードが描くサステナブルな物流とは？

「ロジスティクスを超えてビジネスを新しい領域に導く」という決意のもと、2023年４月１日に社名変更し、新たなスタートを切ったロジスティード（旧日立物流）。いち早くデジタルトランスフォーメーション（DX）に注力し物流業界全体をリードしてきた同社は、人手不足や環境問題への配慮など物流業界が抱える課題をいかに克服し、サステナブルな物流を実現しようとしているのでしょうか。２人のキーマンにお話を伺いました。



ロジスティード株式会社
DX戦略本部スマート&セーフティソリューションビジネス部部長
南雲 秀明氏

グローバル3PLカンパニーを目指して

――新社名「ロジスティード」にはどのような想いが込められているのでしょうか？

「ロジスティード（LOGISTEED）」とは２０１７年から弊社が掲げてきたビジネスコンセプトで「ロジスティクスを超えてビジネスを新しい領域に導いていく」という意思が込められています。今回はこれを社名に掲げることで、改めてその決意を社内外に示し、物流業界の枠を超えて新たな領域に挑んでいく姿勢を強く打ち出しました。今後は新たな付加価値による事業領域の拡張、製造と物流の境界領域における新サービスの拡大、ＶＡＳ（Value Added Services＝付加価値サービス）の展開を加速し、「グローバル３ＰＬリーディングカンパニー」を目指してまいります。ご存じのとおり、今、物流業界は目まぐるしい変化の波にさらされていますが、弊社は自ら変革に舵を切ることで変化に柔軟に対応し、持続可能な物流・持続可能な社会の実現に向けて果敢に取

り組んでいく所存です。

DXの力で物流の課題を解決に導く

――物流業界は深刻なドライバー不足や環境問題への配慮などさまざまな課題に直面しています。どう対応していきますか？

引き続き自動化・省力化やDXによる「スマートロジスティクス®の実現」に注力します。中でも今後さらに重点的に取り組むのは、弊社だけでなくパートナー企業をも巻き込んだ業界全体でのDXの加速です。特に輸配送領域では、その多くを協力会社様と連携して行っているため、輸送事業者の皆様のDXが進まない限り、課題の解決にはつながりません。そこで、この問題を解決するソリューションとして開発したのが、ドライバーの安全・労務管理、発注・請求や車両管理など輸送事業に関わるあらゆる業務を網羅したシステム「SSCV（Smart & Safety Connected Vehicle）」です。SSCVはSmart（効率化）、Safety（安全）、Vehicle（車両管理）の3本柱からなる輸送デジタルプラットフォームで、それぞれ〈図1〉のような課題の解決をサポートします。

自社のみならず、業界全体のDX加速をミッションに

――他社システムにはない、SSCVの強みはどこにありますか？

SSCVの強みは、一般的なシステムインテグレーターではなく物流会社であるロジスティード自らが現場でのテストを繰り返して品質を磨きながら開発し、外部に提供していることです。SaaSですからユーザー側がソフトウェアを導入する必要がなく、インターネット環境さえあれば、いつでもどこでも運用が可能。利用料も非常に低く設定していますので（SSCV-Smart利用料：月額1000円～）、これまで「IT担当者がいない」「コストがかけられない」という理由でDXに二の足を踏んでいた中小の輸送事業者にも導入しやすいように配慮しています。今後もSSCV導入による中小事業者のDXをサポートし、業界全体のDXを加速させることをミッションに、さらなるシステムの機能・品質向上に取り組んでまいります。■



ロジスティード南関東株式会社
代表取締役社長
深澤 啓介氏

DX推進でドライバーの安全意識が向上

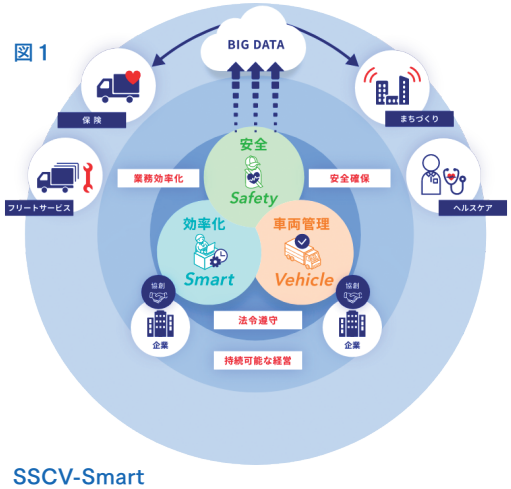
――サステナブルな物流が求められる時代、御社では輸送領域においてどんな取り組みをしていますか？

大きく分けて①DXの推進による業務の安全性向上、②エコカーへの代替推進による環境負荷の軽減の2つに注力しています。

①については、2020年からSSCV-Safetyを導入。ドライバーの健康状態や運転のクセ・傾向などを可視化して運行管理者と共有できる体制を整えたところインシデントの数が激減、確かな手応えを感じています。何よりの収穫は、SSCV-Safety導入を機にドライバー自身の意識が向上したこと。導入当初は一部に「監視されているみたいで抵抗がある」というドライバーもいたのですが、可視化された自身の運転のクセや傾向を目の当たりにすると自ら改善しようという意識が芽生え、注意して運転するようになりますから、結果として技術が向上。その向上ぶりも可視化されて管理者に評価されるとあって、ドライバーがこれまで以上に自主的に安全運行に取り組んでくれるようになりました。今では弊社の主要協力会社の多くがSSCV-Safetyを導入しており、DXによる安全性向上が社内外で着実に進みつつあります。

②については、低燃費・低公害な環境対応車（エコカー）への代替推進の一環として2022年から三菱ふそうのEVトラック「eCanter」を導入しています。CO_2削減に貢献し、

図1



SSCV-Smart
受発注や配車など輸配送に関連する幅広い業務をデジタル化し業務効率向上、電帳法やインボイス制度にも対応しコンプライアンス強化をサポート。

SSCV-Safety
運転前後、さらに運転中のドライバーの生体データから疲労度を可視化、画像や車両の動きをAIが解析し、ドライバーや運行管理者にリアルタイムで警告を発して事故防止をサポート。また各ドライバーの運転を振り返り評価して運転の改善を促し、さらなる安全向上を目指す。

SSCV-Vehicle
車の調達から買い取りまでを支援する車両の一元管理や、IoT技術・ビッグデータを活用した予防診断を行い、車のライフサイクルをサポートする。

豊かな自然環境を次世代に残すことは、弊社に限らずすべての企業に課せられた社会的責任ですから、今後もCO_2を排出しないEVトラックへの切り替えをどんどん進めていきたいと考えています。

eCanter導入で、お客様のブランドイメージ向上とCO_2削減を同時実現

――導入いただいたeCanterはどのような業務に活用いただいていますか？

2台のうち1台は京浜物流センター（平和島）、1台は神奈川県央営業所（寒川町）に配置し、それぞれ特定の企業様専用車両として横浜市内に荷物を運んでいます。ボディに「電気トラックで走行中」「環境にやさしい電気トラック」といったコピーとともに企業様の社名を書いたラッピングを施し、周囲の方にEVトラックであることをわかりやすくアピールしています。地球環境に配慮したトラックで自社製品を運んでいることはお客様のブランドイメージ向上につながりますし、弊社も環境意識が高い企業から選ばれる物流会社であることを示せるという点で大きなメリットがあります。肝心の運行性能についても、担当ドライバーから「加速がスムーズ」「音が静かで疲れない」と好評です。EVトラックには1回の充電での走行可能距離が短いという課題がありますが、弊社の場合は1日当たりの走行距離が80㎞以内に収まるようルートを設定しているため、現状では問題なく運用できています。お客様やドライバーにも喜ばれ、さらにCO_2削減に貢献できるわけですから、eCanter導入のメリットは非常に大きいと言えます。



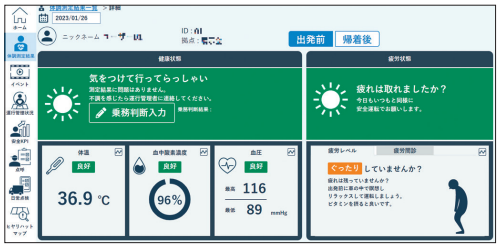
ロジスティード南関東株式会社で運用中のeCanter。電気トラックであることの表示は、荷主企業の環境貢献PRとしても効果的だ。

業界の垣根を越え、EVトラック普及に向けた議論を

――今後、御社がサステナブルな物流を実現していくにあたって、三菱ふそうにどのようなことを期待しますか？

まずはEVトラックの走行距離伸長を早期に実現していただきたいですね。長距離輸送のトラックをEVに切り替えられれば、相当量のCO_2削減につながり、地球環境の保護に大きく貢献できるはずです。またEVトラックの生産数の増加にも、これまで以上に力を入れていただきたいですね。環境問題への消費者の意識がますます高まる中にあって、近い将来、環境に配慮した車両を使っていない物流会社は荷主である企業様に選ばれなくなってしまいます。EVトラック導入を希望している物流会社がいつでもスムーズに導入できる体制を1日も早く整えていただきたいと願っています。

また、社会的な課題ともなっている




SSCV-Safetyの体調総合判定では、点呼時に、ドライバーの体調や疲労状態を各種測定機器により可視化し、客観的データをもとに当日の事故リスクも予測することができる。

サステナブルな物流の実現は、一企業の力のみで達成できる目標ではありません。長く日本のトラック輸送を支えてきた三菱ふそうさんにも、ぜひその豊富な知見を生かして、弊社とともに物流の新領域を目指す挑戦を続けていただきたい。特にEVトラック普及のカギとなる充電設備の拡充や安全技術の向上について、今後も企業や業界の垣根を越えて忌憚のない意見を交換できればと期待しています。サステナブルな物流、そしてサステナブルな社会の実現を目指して、ともに前進してまいりましょう。■

ロジスティード南関東株式会社

〒231-0007
神奈川県横浜市中区弁天通4-59
代表取締役社長
深澤 啓介
創業：
昭和46年８月
従業員数：
1,470人（2022年3月末現在）
保有車両台数：
88台（2022年3月末現在）

ロジスティード株式会社

〒104-8350
東京都中央区京橋2-9-2
代表取締役 社長執行役員（COO）
髙木 宏明
創業：
昭和25年２月
グループ従業員数：
45,681名（2022年3月末現在）
保有車両台数：
1,651台（国内グループ会社 2022年3月末現在）



乗ればわかる

減速する楽しさも味わって欲しい

“3つのやさしい”を届けるトラックなんです



共にこれからの時代をつくりたい

皆様と一緒にビジネスを変えていきたい

EVトラックでは一歩リード



自信を持って世に送り出せる

業界全体の転換期

架装のポテンシャルは∞

特集

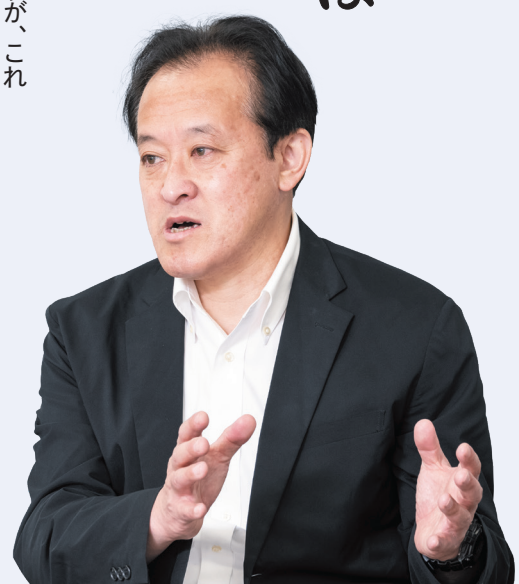
組織を超えた力が生み出す

新型eCanterに込めた熱き想い

電気トラック分野の市場をリードする三菱ふそうが、
満を持して発売した新型eCanterは、ボデーバリエーションが大幅に拡張し、
航続距離も用途に応じて選べるなど大きく進化、注目を集めている。
開発に携わったスタッフからその背景や想いを聞いた。

“スピリッツ”は「電気トラックとはどうあるべきか」

» ト部 昌行
開発本部 エンタイヤービークル開発統括部
Expert



“あるべき姿”をゼロから追求

新型eCanterではこれまでのバッテリーの性能を向上させて新しく開発を行った。担当した開発本部のト部は、「商用車に特化したバッテリーの開発が必要だと判断したのです」と話す。

お客様から、“電気自動車でなければできないことにもっとフォーカスして開発してほしい”と言われたことも後押しとなったと言う。

「乗用車では車にひとつのバッテリーを搭載するのですが、商用車では複数のバッテリーを搭載することが可能です。バッテリーの性能やサイズ、安全性も考慮したレイアウトなど考慮すべき点はさまざまありました」

商用車に特化した開発は、もちろんバッテリーだけではない。

「初代のeCanterは、現行のディーゼルトラックをベースに電動化したというところがありましたが、新型eCanterでは、電気トラックはどうあるべきかということを前提に開発しました」

そうしたコンセプトから生まれたのが、アクスル、リダクションギア、モーター、インバーターが一体化された新開発のコンポーネント、「eアクスル」だ。

「従来のプロペラシャフトはなく、eアクスルだけで動力系、駆動系が完結、コンパクトにしたことで、シャシの展開拡大に貢献しました」

グローバル視点、さらに長年の知見を集約

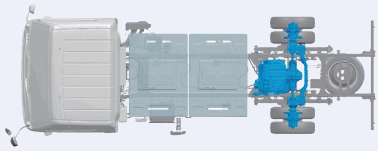
そうした開発を支えたのは三菱ふそうの経験やネットワークだ。

「2010年代から日本だけでなく欧州、そして米国でも電気トラックの開発をはじめ、経験を積み重ねてきました。2017年に初代のeCanterを発売したのですが、これまでのノウハウやデータなどいろいろな情報を積み重ねて今があります」

世界最大級の商用車グループ、ダイムラーとの協業で、技術や部品の調達はもちろん、マーケティング的なことも含めグローバルに共有してきたことも大きな強みだとト部は話す。



ホイールベースに応じて、1個から最大3個まで搭載可能なモジュール式バッテリーを採用。豊富なボデーバリエーションに対応し、ラストワンマイルから長距離までの用途ごとの選択が可能に。



アクスル、リダクションギア、モーター、インバーターが一体化された新開発のコンポーネント「eアクスル」を採用し、プロペラシャフトのないコンパクト構造を実現。シャシの展開拡大に貢献している。

開発における主な課題

＊航続距離とバッテリー

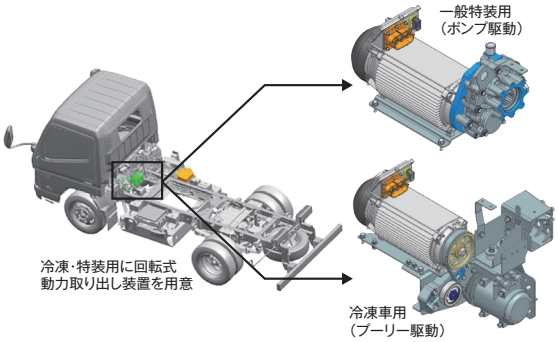
航続距離を延ばすことは、お客様からの要望も大きく、電気トラックの課題でもあった。解決には、バッテリーの開発や、回生ブレーキの機能強化、キャビン内暖房の省電力化などが必要だった。

＊架装性

トラックに大切な架装部分。さまざまな種類のある架装物に、独自開発するePTOが供給する動力がどうあるべきかを考える必要があった。そのため初期の段階から架装メーカーと相談を重ねた。

＊安全性

電気トラックは市街地での配送が多く、大型トラックとは大きく走行環境が異なる。新型eCanterにふさわしい安全性やコンセプトを考え、どのような機能を搭載すべきか検討を重ねた。



新型eCanterでは、ディーゼルトラックと同様の動力取り出しができるようにモーター式のePTOを採用。架装性が増し、特装用油圧ポンプ、冷凍機コンプレッサーの駆動などが可能に。

架装メーカーと検討重ねePTOを独自開発

トラックの荷台を用途に合わせて搭載する「架装」。例えばディーゼル車の場合、ダンプの荷台を上昇させる架装の動力はエンジンから取り出していて、その仕組みはPTO（パワーテイクオフ）と呼ばれる。新型eCanterではモーター式のePTOを独自に開発。リアクレーン、塵芥車、冷蔵車といった架装にも対応し、活躍の場が広がった。

「私は、架装あってのトラックだと思っています」と話すのは、架装の開発に関わった国内販売・カスタマーサービス本部の田邉だ。

「新型eCanterでは、ePTOをあらゆる架装に対応させるべく、初期段階から多くの架装メーカー様に相談させていただきました」

ePTOをどんな架装にも対応させるのは困難を極めた。

「多くのお客様が使われている現行のディーゼル車の架装をベースに考え、検討を重ねた結果、ePTOをキャブの下に装備することが一番だと判断しました」

それでも今の搭載位置ではまだ架装できないものもあり、田邉は今も改善に取り組む。

「問題点を洗い出して、次の開発につなげていきたいですし、お客様のビジネスに対して、私たちがどんなトラックを提供できるのかを一緒に考えていくことができたらと考えています」



問題点を洗い出し、次の開発につなげたい

» 田邉 健

国内販売・カスタマーサービス本部
販売統括部（架装・改造技術）



電気トラックでは暖房にバッテリーを消費する。そのためキャブ全体を温めるのではなく、ドライバーが直接触れるシートやステアリングなどの必要な箇所のみを温めることで省電力暖房を実現している。

安全装置の採用でお客様には大きなメリットが

新型eCanterは安全性も大きく向上。大型トラックでも実績がある、左折時の巻き込み事故のリスクを低減するアクティブ・サイドガード・アシスト1.0や、車両や歩行者を検知するアクティブ・ブレーキ・アシスト5が採用されたのだ。開発本部の二宮はその狙いについてこう話す。

「小型トラックは市街地の配送が多く、頻繁な右左折や、歩行者の予期せぬ動き、路上駐車をしている他の車などへの注意が必要です。そのため新型eCanterへのこうした装置の採用は大きなメリットがあるのではないでしょうか」

また、二宮は新型eCanterではシートヒーターなどの開発を担当した。

「これまでの車は、エンジンの熱を使って暖房を使うことができますが、新型eCanterの場合は走行用バッテリーの電気を使って空気を温める必要があります。そのためキャブ全体の温度を高くするためには電気を消費するので航続距離に大きく影響してしまいます」

課題の解決には発想の転換があった。

「キャブ全体を温めるのではなくドライバーが直接触れるシートヒーターやステアリングヒーターを開発し、消費電力の削減に大きく貢献できました。短時間で包み込むような温もりが得られるので、ぜひ体感してみてください！」



消費電力を大きく削減することに貢献できた

» 二宮 崚

開発本部 エンタイヤービークル開発統括部

「テスト」で得られた確かな手応え

試験を繰り返すことで、「乗り味」の確認も

» 山口 伸二
開発本部 実験統括部 マネージャー



もっとも重視するのはトラックの耐久信頼性

新型eCanterは発売前に100万km以上の走行試験が行われたが、開発本部の山口は、「電気トラックに限らずトラックの試験でもっとも重視するのは耐久信頼性です」と話す。

「新型eCanterも、他のトラックと同様に高速周回路を連続的に走り、最終的には公道で実績を積みました。マイナス25度といった過酷な環境下でも走行するなど、さまざまな試験を繰り返すことで耐久性を実証できたのです」

車両テスト担当の山口は試験での手応えをこう語る。

「電気トラックの課題である航続距離についても議論を重ね、試験を続けました。回生ブレーキやシートヒーターの実現で、航続距離を延ばすことができたことには満足感があります。

また、いわゆる『乗り味』も確認できました。EVならではの気持ちいい加速に加え、私が特にアピールしたいのは、回生ブレーキが生み出す回生力。ほぼワンペダルで走れる独特の操作性で、減速する楽しさも味わえるんですよ」

新たな機能を試験することで実感することもある。

「公道での試験では、新たにeCanterに搭載された左折時の巻き込み事故のリスクを低減するアクティブ・サイドガード・アシスト1.0などの安全装置の効果を実感することもできました」

こうした試験が開発と同時に行われているのだ。



回生ブレーキは発電により強力なブレーキ力を発生し、同時に発電した電気でバッテリーの充電を行う。新型eCanterでは制動力は4段階になり、ほぼワンペダルでの走行が可能に。電費向上にも貢献する。

課題・ニーズをとらえ、「企画」が目指したもの

お客様のeモビリティへの変革を支援していきたい

3つの「優しい」を提供 新型eCanterが変えるもの

「新型eCanterは3つの『優しい』を提供できるトラックだと思っています」

商品・経営戦略本部の平田はそう話す。

「ひとつ目は環境への優しさです。CO_2の削減はもちろん、トラックヤードで働かれている方の環境、健康面への優しさも提供できるのではないかと考えています」

2つ目の優しさは「運転のしやすさ」だ。

「安全装備も大きく進化し、回生ブレーキにより、ほぼワンペダルでの走行も可能になりました。あらゆるドライバーにとって、運転しやすいクルマを実現できました」

3つ目は「財布に優しい」こと。

「メンテナンスのコストだけでなく、これまでの燃料代と比較すると電気代の安さを実感できるはずです」

また、平田は技術的な転換期と言われるEV化は、ビジネス全体も大きく変えると考えている。

「新型eCanterのお客様には、これまでとは違ったアプローチが必要となってくると思います。車両やその運用だけでなくお客様のeモビリティへの変革を支援していきたいと考えています」



» 平田 和孝
商品・経営戦略本部
セグメント戦略部

» 田中 宏長
商品・経営戦略本部
セグメント戦略部 マネージャー

お客様の生の声こそが一番のエネルギー

品田 善之
国内販売・カスタマーサービス本部
販売統括部（国内商品計画）



声に耳を傾けたからこそ自信を持っておすすめ

新型eCanterには「運転が楽」「発進性が良い」「静か」「振動が少ない」といった好意的な反響が数多く寄せられている。

営業を担当している品田は「電気トラックで仕事をすると、もうディーゼルトラックには戻りたくないと話すドライバーさんもいらっしゃるようです」と話す。

そうした評価の背景には、三菱ふそうのこれまでの電気トラックへの取り組みがある。「2017年に国内初の量産型小型電気トラック・eCanterを発売、お客様に利用していただけたことは大きなポイントだと思います。電気トラックを実際に体験し運用していただくことで、私たちにも必要なノウハウが蓄積されました。充電を含めたインフラ整備などの課題についても、お客様の生の声を取り入れることができたのです」

そうしたお客様からの声を生かして誕生した新型eCanterは、さまざまな用途に対応した28型式の豊富なシャシをラインアップし、航続距離の延長も実現、安全性も大きく進化した。

「営業も新型eCanterは自信を持って提案しています。新たな運用方法などをお客様と一緒に考えながらEV化を進めていきたいと考えています」と品田は胸を張った。



新型eCanterの開発には、国内だけではなくグローバルの、しかもエンジニアだけではなく、さまざまな部門のスタッフが関わっている。お客様の声のフィードバックも、組織の壁を越えた円滑なコミュニケーションにより共有されている。

Summary

三菱ふそうが自信を持って世に送り出す！ 新型eCanterはこんな電気トラック

ボデーバリエーション（国内）を現行の1車種から28種に拡充

新型eCanterは、トラック本来の「大きな荷物を載せて運ぶ」という役割に可能な限り近づけた電気トラックである。



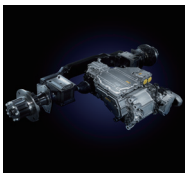
モジュール式バッテリーで航続距離が大幅な向上

ホイールベースに応じて最大3個のバッテリーを搭載でき、幅広い用途に対応。航続距離は最大324kmを実現。



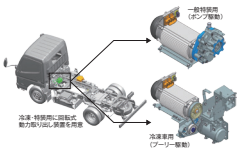
モーターとアクスルを一体化したeアクスルを開発

モーターを後軸の近くに配置できるため、バッテリーを搭載するスペースを確保。架装性を高めることにもつながった。



ePTOの開発で、架装性が高まった

架装メーカーと相談を重ね、ダンプ、リアクレーン、塵芥車、冷蔵車、脱着車といった架装にも対応している。



電気トラック特有の機能が充実

回生ブレーキの強化が、電費やドライバビリティの向上に貢献。また、冬場の走行時のエネルギー消費を節約できる「省エネ暖房」機能などを追加した。



先進安全装置の大幅拡充

左折時の巻き込み防止機能や衝突被害軽減ブレーキのグレードアップなど先進的な安全装置を大幅に拡充。安全運転のサポートを強化した。



未来へ、はこぶ人。

interview

棋士 羽生善治さん

前編

大切なものを、大切な人のもとに〝はこぶ〟。私たちがトラックに込めている想いと同じように、自らの経験や想いを、未来へ伝えようとする人がいます。今年1～3月に行われた第72期王将戦で挑戦者となった羽生善治さん。50代を迎えても活躍を続ける羽生さんに、ご自身と将棋の未来について伺いました。



写真提供：共同通信社

未来へ、はこぶ人。 interview

「実現できてよかった」32歳差の壁を越えたタイトル挑戦

――先の王将戦は2年ぶりのタイトル戦、相手は藤井聡太王将でしたが、挑戦が決まったときはどのような思いでしたか？

羽生善治さん（以下、羽生） ここ数年、私自身がなかなか結果を残せず対戦を実現できなかったので、挑戦が決まったときは「実現できてよかった」と思いました。藤井さんとは32歳の年齢差がありますが、それだけ年の差があるとタイトル戦の大舞台ではすれ違ってしまうことが多かったんです。これまで米長先生（米長邦雄永世棋聖）とは1994年の名人戦で対戦しましたが、大山先生（大山康晴十五世名人）、中原先生（中原誠十六世名人）とのタイトル戦は実現しませんでした。

今回の王将挑戦までを振り返ると、ほかの棋戦も含めてコンスタントに勝ち進んでいれば「いつか藤井さんとタイトル戦をする機会が来るだろう」と考えることができたでしょうが、ここ数年は挑戦者決定戦まで行くとか、リーグ戦で結果を残すところまでなかなか行けませんでした。今回はうまくチャンスをつかむことができたのかなと思います。

――世間的にも大きな注目を集めましたが、普段とは違うプレッシャーはあったのでしょうか。

羽生 そうですね。もちろん緊張感はあるんですが、それで何かが変わるということはなく、いつもの状態で臨もうと思っていました。ただ、気持ちの持ち方は難しい面があって、モチベーションが上がりすぎると空回りしてしまいますし、リラックスしすぎると気持ちが乗ってこないこともあります。そのあたりの加減を考えながらやっているというところです。

また、将棋の対局は長時間にわたって行われるので、ずっと冷静沈着でいるのは難しい面があります。そうした状況でも一定の精神状態でパフォーマンスを発揮できればいいのですが、モチベーションは天気みたいなもので晴れの日も曇りの日もありますし、一日の中での浮き沈みもあります。良い精神状態を無理してつくろうとするのではなく、気持ちが乗らないときは乗らないなりに、良いときは良いときなりに、自分のやり方を見つけていくことを心がけています。

――「棋は対話なり」といわれますが、印象に残っている藤井王将との〝対話〟はありますか？

羽生 対局が終わったあとに「感想戦」という反省会みたいなものをやります。普段は観戦記者の方に分かるよう、駒を動かして説明しながら進めるのですが、今回の観戦記者は棋力が高い方だったこともあって、読み筋や局面ごとの状況判断をほぼ口頭だけでやり取りしました。「ああ、そこで飛車を切って…」「あそこは銀で…」「そっちでしたか」というように具体的な指し手のことは端折っても、対話が成り立っていたのかなと思います。

今回の王将戦は調べがいのある局面が多く、感想戦では疑問に思っていたことを解明するなど、楽しんでいました。対局が終われば、まあ気楽な面もあります（笑）。



第72期王将戦の第４局で藤井王将（手前）に勝利し、感想戦で対局を振り返る羽生さん。

> おそらく人間は、将棋の「答え」にたどり着けない。それでも未知のことが分かっていくことは楽しい



Yoshiharu Habu

棋士。1970年生まれ、埼玉県所沢市出身。12歳で棋士養成機関「奨励会」に入り、1985年、15歳で棋士となる。19歳で初タイトル・竜王を獲得。25歳で史上初となる７大タイトル独占。47歳で史上初の永世７冠を達成。2018年、国民栄誉賞を受賞。2022年、史上初の通算1500勝を達成。

AI時代における棋士の存在価値は〝個性〟と〝創造性〟

――近年、AIの登場によって将棋が変わったといわれますが、どのような影響があったのでしょうか。

羽生　一つは、将棋の定跡のかなりの部分がAIによって書き換えられました。常識とされていたことが、そうじゃなくなったという変化ですね。

もう一つは、未解決だったことがどんどん解決していきました。以前は「よく分からない」「はっきりしない」と結論が出なかった局面を解析しやすくなりました。ただ、未解決なことが解決しても新たな未解決テーマが出てきて、全てが解明されるわけではないというのが将棋の面白いところですね。

――将棋のルールは400年以上変わっていないのに、未知の部分がたくさんあるのですね。

羽生　そうですね。現在の将棋のルールが確立されるまでに、おそらく幾度となくルールが変更されたのでしょう。その中でより洗練されて、精密になっていったのは間違いありません。簡単に解明できない奥深さがあり、歴史の重みを感じます。

実は将棋の結論は、「ある」と証明されています。でも、それを解明するのにコンピュータで解析して何十億年もかかるので現実的ではないという話です。人間は将棋の「答え」にたどり着けないとしても、未知のことがちょっとずつでも分かっていくことにやりがいを感じますし、好奇心が満たされますね。

――羽生さんはAIをどのように使っているのでしょうか。

羽生　発想の幅を広げるという使い方がメインです。自分自身のアイデアや発想はもちろんありますが、それだけでは不十分なので、AIの考え方や評価の仕方、創造性などを蓄積しています。

AIにも創造性があります。ただ、人間の思考プロセスとはかなり違います。マシンラーニング（機械学習）によって人間の1000年分、1万年分にも匹敵する膨大な経験値を積んでいるので、「考える」という点では同じでも、プロセスは全く異なるわけです。AIの思考プロセスはブラックボックスで分からない部分があるものの、人間なりに置き換えて解釈し、吸収していくという感じですね。

――今後も将棋は変わり続けると思いますが、将棋界の未来を担う藤井さんや若手棋士にどのようなことを伝えていきたいですか。

羽生　自分なりの道やスタイルを確立することを目指して頑張ってほしいと、いつも思っています。これは自分自身にも言えることですが、棋士にとって大きなテーマです。

AIは強い。でも、人間がAIと同じ将棋を指しているようでは、棋士の存在価値はあまりないと思います。「AIは強い」という現状を受け止めつつ、プラスアルファで何を生み出していくか――個性や創造性をどう発揮していくかが問われていると思います。

Present!!

羽生善治さんの揮毫（きごう）入りサイン色紙を2名様にプレゼント

応募方法はP.19をチェック！



インタビューの後半は、FUSO magazine No.85に掲載いたします。お楽しみに！

キャンター 60周年特別企画！

第1回 CANTER検定

2023年はCANTER誕生から60周年の節目の年です。
特別企画として、CANTERの歴史をクイズ形式で振り返る
「CANTER検定」を開催。ぜひチャレンジしてみてください！

今回は、キャンター誕生～70年代を振り返ります！



問1 1963年にキャブオーバー小型トラックとしてデビューした「キャンター」。
フロントの三菱マークの下のロゴは何だった？

Ⓐ CANTER　Ⓑ FUSO　Ⓒ MITSUBISHI

問2 1973年にデビューしたT200型シリーズでは、フロントマスクを一新。特徴的なデザインは、通称「●●キャンター」と呼ばれました。

Ⓐ Mキャンター　Ⓑ Vキャンター　Ⓒ Wキャンター



問3 1978年に登場したFE1・2型は、テレビCMなどでも登場。キャッチフレーズは「●●の足」というものでした。さて、何の足でしょう？



Ⓐ 新世代の足
Ⓑ 輝きの足
Ⓒ 黄金の足

問4 60周年を迎えた三菱ふそうの「CANTER」ブランド。では、CANTERとは何に由来する言葉？

Ⓐ 馬術
Ⓑ 剣術
Ⓒ 兵術

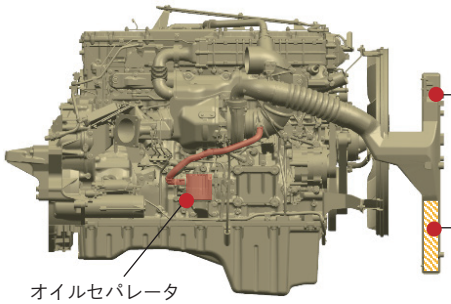
正解はP.19をチェック！

三菱ふそうからのお願い

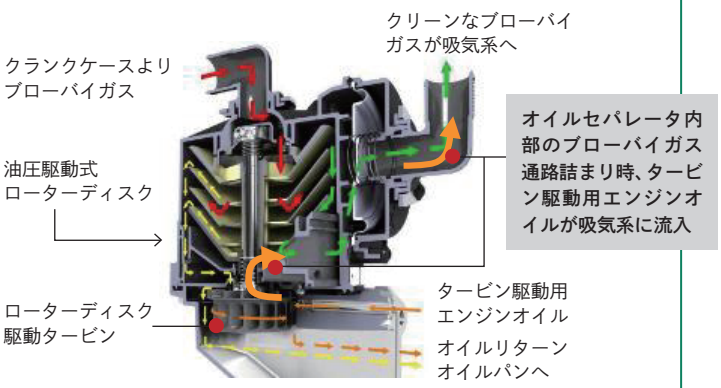
6R10型エンジン「オイルセパレータ」詰まり防止のためオイル交換をお願いします

お車の運転状況によって、エンジンオイルの劣化が進み、オイルセパレータが詰まる場合があります。適切な時期にエンジンオイル交換を実施していただくようお願いします。

6R10型エンジン右側面図



オイルセパレータ内部構造



6R10型エンジンは、ブローバイガス中に含まれるオイルミストを分離するため、遠心分離方式のオイルセパレータを採用しております。

オイルセパレータの性能を維持するためには、適切な時期にエンジンオイルを交換することにより、オイルの劣化によって発生するスラッジ(沈着物)を抑制し、オイルセパレータ内部にあるブローバイガス通路の詰まりを防止する必要があります。

オイルセパレータに詰まりが発生した場合、クランクケース内圧力が上昇することによりエンジンオイルが吸気系に流入し、エンジン破損に至る恐れがあります。

異常発生時の対処方法

万が一、以下のような状況が発生した場合は、無理に走行せず速やかに最寄りのFUSOサービス工場へ連絡し、適切な処置をお願いします。

1. **運行前点検において、エンジンオイルの減り方が通常よりも急に多くなった場合**
2. **意図せぬエンジン回転上昇や上昇・下降の繰り返し(過回転防止制御作動)があった場合**
3. **エンジン油圧ランプ点灯ならびに警報ブザーが吹鳴した場合**

6R10型エンジンのオイル交換インターバル

下表に従い、ご自身の車両が「シビアコンディション」に該当するかご確認の上、指定されたオイル交換時期を守ってください。

使用オイルおよび条件		オイル交換時期	エンジンオイルフィルタエレメント交換時期
下記以外	ふそうエンジンオイルDH-2	40,000kmごと	オイル交換と同時
	ふそうエンジンオイルスーパーDH-2 ふそうハイグレードエンジンオイル	60,000kmごと 80,000kmごと(高速道路を70%以上走行する場合)	
シビアコンディション(※)に該当する場合	ふそうエンジンオイルDH-2	20,000kmごと	
	ふそうエンジンオイルスーパーDH-2 ふそうハイグレードエンジンオイル	30,000kmごと	
共通		12ヶ月以内	

※シビアコンディションとは主に次のような走行をする場合です。

- 発進・停止の繰り返しが多い場合、もしくは走行距離の30%以上が低速走行(車速20km/h以下)の場合
- 頻繁(10分以内)にエンジンの始動、停止を行う走行が多い場合
- 短い距離(10km以下)の走行を繰り返す場合
- 時間頻度で50%以上の長時間アイドル運転を行う場合 ……→

例えば、1日の平均的な車両使用時間を10時間と仮定した場合、合計5時間以上をアイドルで使用される場合が該当します。なお、アイドルには荷の積み降ろし、仮眠、フェリーでの移動中などにエンジンを運転している時間を含みます。また、通常の運行の中で、日によってアイドル時間にばらつきがある場合は、長い方で判断してください。

❗ 上記4項目に該当するか判断が難しい場合、目安として**燃費が2.5km/L以下であればシビアコンディション**と判断してください。

FUSO INFORMATION

災害救助

災害時の初動対応に特化したコンセプトカーを開発

自然災害への備えの重要性が年々高まる中、三菱ふそうは、国士舘大学 防災・救急救助総合研究所と共同で、災害発生時に迅速かつ効果的な初動対応を可能にするコンセプトカー「ATHENA」（アテナ）を開発しました。

機動力が高く、耐久性に優れた小型トラック「キャンター」の四輪駆動車をベースに、悪路に強く、災害時に必要な資器材を搭載。東京マラソン2023では、国士舘大学 沿道救護チームのサポートを行いました。







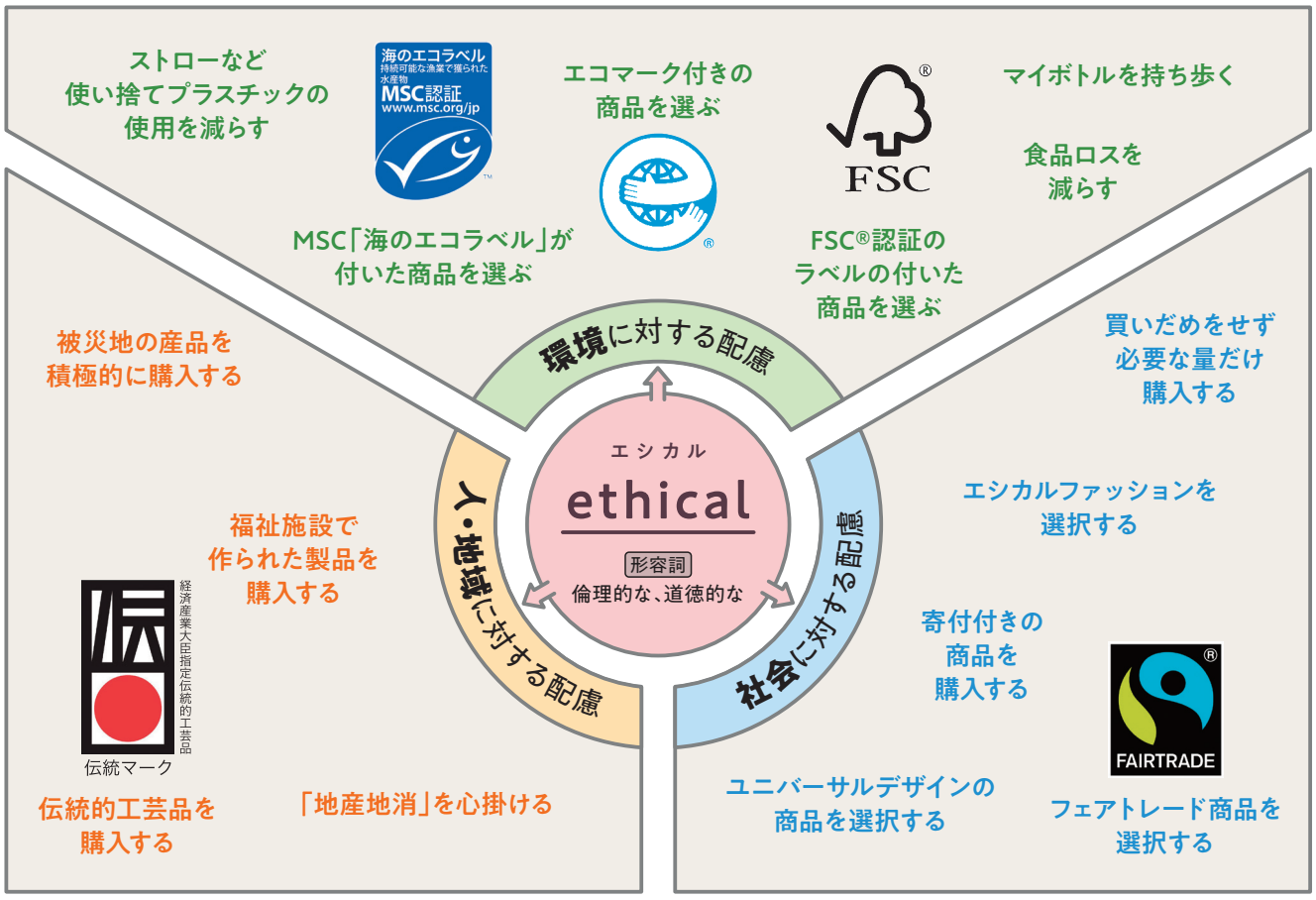
緊急支援

トルコ南部地震の被害およびウクライナに対する支援を実施

当社の親会社であるダイムラートラック社は、トルコ共和国で発生した地震により被災された方々への緊急支援として100万ユーロの寄付を行いました。この寄付金は、ドイツ赤十字社と国連児童基金（UNICEF）に均等に寄付され、トルコとシリアで被災された方々への支援プロジェクトに充てられます。また、支援用の車両を供給するとともに、被災地域に向けて人道援助物資の輸送車隊を編成しました。

また、国連児童基金（UNICEF）、ドイツ赤十字社および国連世界食糧計画（WFP）を通じて、ウクライナの人々に対して100万ユーロの寄付を行いました。他にも、2022年２月24日のロシアによるウクライナへの侵攻開始を受け、230万ユーロ以上に相当する支援金、物資、救援車両をお送りしています。ボランティアの運転手が200台以上のトラックを運転し、約3,700㌧に及ぶ救援物資をウクライナへ運びました。

甚大な被害を受けた方々や避難を余儀なくされた方々に対して深くお見舞い申し上げるとともに、一日も早く日常が戻ることを心より祈念いたします。



今さら聞けない
トレンド用語
ビジュアル解説

【エシカル消費】

えしかるしょうひ

エシカル（ethical）は英語で「倫理的な、道徳的な」という意味があります。そして、「その商品を買うことが倫理的に正しいか」を考えて行動しようというのがエシカル消費の考え方で、具体的には「人や社会、環境に配慮した消費行動」を指します。

何を買うかを選ぶとき、「その商品がどのように作られているか」や「その商品を購入することで社会にどういう影響があるか」は、あまり考えられてこなかったと思います。しかし、地球環境や社会の持続可能性（サステナビリティ）に対する関心が高まる中、自分のことだけでなく、社会や環境のことも考え、社会課題の解決につながるような消費行動をとるべきだと考える人が、今、増えているのです。

例えば、エコマークの付いた商品を選んで買うようにするのは、環境に配慮したエシカル消費の分かりやすい事例です。あるいは、フェアトレード認証（下記「注目キーワード」参照）の付いた商品の購入も、途上国の人を考慮したエシカル消費です。途上国支援と言うと手の届きにくいことのように感じますが、少しの気付きと、買う物を変えるだけで貢献できます。

このように、一人ひとりの行動で少しずつ世の中を良くしていこうというのが、エシカル消費なのです。

「エシカル消費」が関連するSDGsは、ゴール12「つくる責任 つかう責任」

エシカル消費は、「生産」と「消費」両面の持続可能な形態を目指すという意味で、特にSDGsの12番目のゴールの達成に貢献します。

12 つくる責任 つかう責任

注目キーワード　フェアトレード

途上国の生産者の暮らしの改善や自立の支援、現地の環境保全に配慮して、適正な価格で行われる「公平な貿易」のこと。国際認証機関が定める基準を満たして取引された原料や製品には、「国際フェアトレード認証ラベル」が付与されます。日本で流通し、一般消費者が購入しやすい商品としては、コーヒー、紅茶、チョコレート、バナナなどがあります。

三菱ふそうユーザー

Ranking & Voices

「FUSO magazine」のアンケート結果から、
三菱ふそうユーザーの皆さまの「好き！」や「おすすめ！」をピックアップ。
読者をつなぐコミュニケーションが生まれるようなページを目指していきます。
プレゼント応募フォームからお答えいただけますので、
ぜひ皆さまのお声をお寄せください！



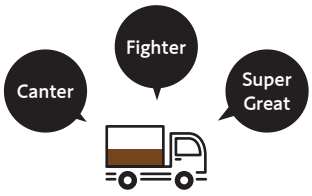
今回の募集テーマ

ふだん、健康のために摂っている食品は？



さまざまな健康ドリンクや発酵食品、サプリメント…。皆さんが日々の健康を意識して取り入れている食品は何でしょうか？ 「実感した効果」なども、ぜひお聞かせください！

これまで一番長く付き合った三菱ふそうトラックは？



皆さんのお仕事の“相棒”とさせていただいた、三菱ふそうのトラック。その中で「コイツとは長い付き合いだったな」という一台について、車種やエピソードを教えてください。

ご回答いただいた内容は「2023 07/08号」「2023 09/10号」にて掲載の予定です

アンケート回答方法

スマホ＆PCから簡単にご回答いただけます

スマートフォンから

PCから https://forms.gle/kCmh4vbxHooCgqb39

回答締切
2023年6月30日（金）



プレゼント応募も同時にOK

※ご記入いただきました内容は「FUSO magazine」誌面充実のためにのみ利用させていただき、ご本人の同意なく、個人情報を第三者に開示することはいたしません。
個人情報に関するお取り扱いにつきましては、三菱ふそうトラック・バスのホームページをご覧ください。

Present

アンケートにご協力いただいた方に
貴重なサイン色紙やFUSOオリジナルグッズをプレゼント！



超貴重な
揮毫（きごう）入りサイン！

羽生善治さん
サイン色紙
2名様



スタンド
ワイヤレス
充電器
5名様

eCanter
ペーパークラフト **10**名様



オーガニック
ソフトタオル
5名様



eCanterボールペン&
ブロックメモ セット
10名様





ティッシュBOX
3名様

応募方法

スマートフォンから

PCから

https://forms.gle/kCmh4vbxHooCgqb39

応募締切
2023年6月30日（金）

※ご記入いただきました内容は「FUSO magazine」誌面充実のためにのみ利用させていただき、ご本人の同意なく、個人情報を第三者に開示することはいたしません。個人情報に関するお取り扱いにつきましては、三菱ふそうトラック・バスのホームページをご覧ください。

キャンター60周年特別企画！

第1回 CANTER検定 » 解答コーナー



問1 1963年にキャブオーバー小型トラックとしてデビューした「キャンター」。フロントの三菱マークの下のロゴは何だった？



答え Ⓑ FUSO

現在のCANTER同様「FUSO」ロゴがシンプルに配置されていました。

問2 1973年にデビューしたT200型シリーズでは、フロントマスクを一新。特徴的なデザインは、通称「●●キャンター」と呼ばれました。



答え Ⓑ Vキャンター

フロントマスク中央部の形状を「V」に見立てた呼び名で親しまれました。

問3 1978年に登場したFE1・2型は、テレビCMなどでも登場。キャッチフレーズは「●●の足」というものでした。さて、何の足でしょう？

答え Ⓒ 黄金の足

基本色の黄土色も、黄金を思わせるカラーリングで、通称「黄金キャンター」とも呼ばれていました。エンブレムのMマークもポイントです。



問4 60周年を迎えた三菱ふそうの「CANTER」ブランド。では、CANTERとは何に由来する言葉？

答え Ⓐ 馬術

Canterは、馬術・競馬用語で「ゆるやかな駆け足」を意味し、小気味よく走るCANTERにはぴったり！ カンタベリー（Canterbury）大聖堂に向かう巡礼者が馬をゆっくりと走らせたことに由来する単語だそうです。

FUSO magazine No. 84 | 2023 May/Jun.

ついにそのときがきた、
未来が日常になる日が。

新型eCanterは、三菱ふそうが満を持して送る、最新の電気トラック。
1型式⇒28型式に大幅に増えたバリエーションにより、様々な架装のニーズに応え、
また、車両に合わせた3サイズのバッテリーにより、用途に合わせた航続距離を提供。
この2つのパワーアップにより、電気トラックは、
もう遠い未来の特別な存在ではなく、日常当たり前に使う、身近な存在に。
2050年脱炭素社会の実現に、静かでクリーンな街に、また一歩近づきました。



新定番

新型 電気トラック
eCANTER
受付開始

トラック・バスのお問い合わせは、三菱ふそう販売店へ

LINE 三菱ふそう 公式アカウント

スマホのカメラでQRコードを読み込むだけ！

三菱ふそうトラック・バス株式会社
www.mitsubishi-fuso.com

発行 三菱ふそうトラック・バス株式会社 〒211-8522 神奈川県川崎市中原区大倉町10番地